

びっくり! エコ新聞

小学校のみんなは、かぞくといっしょにみてね



びっくり! エコ実行委員会
MAIL: mezase530@gmail.com

生物多様性



①たくさんの種類のいきもがいること(種の多様性)



②複数のいきものたちが関係して成り立つ環境がたくさんあること(生態系の多様性)



③同じ種類のいきものであってもそれぞれ違っていること(遺伝子の多様性)

近年の生物多様性

日本だけではなく海外でもそうですが、外来種などの問題に注目が集まるようになってきました。日本では外来種と言え、これまでブラックバスやウシガエルなどが典型的なものですが、最近ではミシシッピアカミミガメやアメリカザリガニが特定外来生物に指定されて話題となりました。他にもアライ



生物多様性とは何か?

みなさんは、「生物多様性」という言葉を聞く、何を思い浮かべますか? 手つかずの自然? たくさんのいきもの? なんとなきいきもの? いったいどのような風景を思い浮かべるのでしょうか? ながはつきりとして説明するんが、はつきりとした説明するんが、実は難しくなっています。すよね。実は、生物多様性というものを考えるときは、次の3つの点に分けると、考えやすくなります!

①たくさんの種類のいきものがあること(種の多様性)
②複数のいきものたちが関係して成り立つ環境がたくさんあること(生態系の多様性)
③同じ種類のいきものであってもそれぞれ違っていること(遺伝子の多様性)
おそらく、多くの人が生物多様性という言葉を知り、思い浮かべるのは①の種の多様性ではないでしょうか。特に③については、生物学の勉強をしているような人でないとなかなか意識できない点かもしれません。誰しもが想像できる例を挙げるとすれば、ヒトです。この記事を書いている私も、読んでくださった皆さんもみんな同じくヒトですが、見た目の性格も全く同じようなヒトではないですよ。それでは、①②③は、それぞれ全く異なるレベルの話ですが、どれか一つでも話ですら、同時に他の2つも崩れてきてしまうような、密接に関わりあっているものなのです。



いっきもの観察会

観察会では、フィールドでいきものを捕まえたあと、少しの間だけ透明の虫ごいに入れてじっくり観察を行ったのち、フィールド(外の自然)でいきものを採ることに詳しく研究者と一緒に、楽しく安全にいきものを見てみましょう。いきもの見つけ方、見分け方もコツをつかめば誰でも挑戦できることがたくさんあります。楽しいはもちろんです。研究者がいるからこそ、いきものを通過していろいろなことを学ぶことができます。それまでは「見えなかったいきものたちが、次からは自分の力で「見えな」ようになるかも!」

2023年度の実施予定
6月・8月・10月・3月(2024年)の、めぐる市での実施を予定しておりますが、天候などによって日程が変わることがあります。参加を検討される方は、いきもの倶楽部KONOMIのメールマガジンへご登録ください(無料です!)
https://forms.gle/FrFdmZRm5TyYwT56

小学校×商店街×駅前ビル×地域×大学

持続可能な未来?!

京都市山科区において、持続可能なまちづくりを目指して、京都市立安来小学校(以下安来小)と地域関係者(山科商店会、京都山科入居事業者、ラクトンテリ、浅利美鈴研究室、京都超SDGsコンソーシアム)らが連携し、地域の方々の協力も得て、「山科SDGsパートナープロジェクト」を展開しています。



授業の様子



児童が作成したポスターを地域で展示

この取組が、地域の方々や児童たちにもたらす変化などについて把握することにより、今後の改善につなげたり、1つのモデルとして他の地域へ発信したりすることも考えています。

具体的には、児童がまずSDGsや山科地域について学び、地域の事業者と対話した後に、持続可能なまちづくりのための提案を行いました。ポスター等による発表を地域で展開することで、児童と地域の人をつなげるような場も提供されました。

なお、本プロジェクト連携主体である京都大学浅利研究室、地域関係者(浅利美鈴研究室)、山科商店会、安来小は、それぞれ、京都超SDGsコンソーシアムが運用する「京都SDGsパートナー制度」に登録されています。

京都SDGsパートナー制度について

1 京都SDGsパートナー制度とは?
2 制度の対象は?
3 登録の仕方は?
4 色んなSDGsを見てみよう

集まれ未来のリーダーズ! 京都大学SDGsリーダー育成プログラム

京都大学地球環境学は全学の中高校生を対象に「京都大学SDGsリーダー育成プログラム(SPARTU)」を育成しています。SPARTUは地域のリーダーになる人材を育成することを目的として、2020年からプログラムを開始しています。



ポスターを使って説明の様子(最終成果発表会)

マクドナルド × 京都市立芸術大学 × 京都市

「生物多様性」について考えて、行動する 産学公連携プロジェクト

「トレイマット デザイン コンテスト」

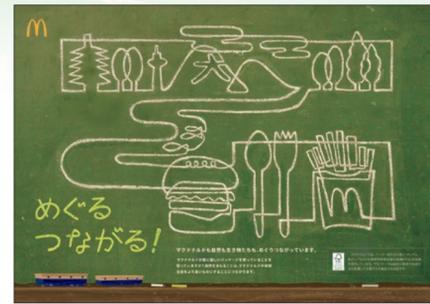


私たちの生活は、多彩で豊かな自然が様々な生物を育み、その恵みを受けて成り立っています。日本マクドナルド株式会社は、食を提供する企業として、いつまでも美味しいお食事を可能な限りサステナブルな食材・資材でお届けしたいと願っています。日本マクドナルド株式会社、京都市立芸術大学、京都市は、「生物多様性」の保全やサステナブルな食材・資材の調達、持続可能な社会の実現につながるなどの想いで一致し、このプロジェクトが実現しました。

このプロジェクトでは、サステナブル・ラベル(※下段のコラム参照)や京都市の生物多様性の施策、マクドナルドの取組を学んだ京都市立芸術大学美術学部デザイン科の学生が、マクドナルドに来店するお客様に生物多様性について考えていただくきっかけとなるよう、店舗で使用しているトレイマットのデザインに挑戦しました。最優秀賞・優秀賞・京都市長賞が選ばれ、最優秀賞の作品は実際のトレイマットとして京都市内のマクドナルド全店舗で使用されました(2023(令和5)年2月8日～2週間)。



国産木材を使用した店舗での表彰の様子



最優秀賞 高野 知佳さん デザイン科2回生
マクドナルドには自然を大切にしている取り組みが多くあります。マクドナルドも、森とそこに暮らす人や生物たちも、つながりあってより良い関係を築いていく様子を一本の線で描いたイラストで表現しました。



優秀賞 庄 英里さん デザイン科2回生
環境に優しい取り組みが親子に一目で伝わる手描きにこだわり、優しさを演出しました。子供には難しい環境問題をマークがついたマクドナルド商品の選択で貢献できることを感じてもらえるよう、子供が種(ハンバーガーの胡麻)を撒く絵にしました。文章は優しい口調でマクドナルドを選んでくれた感謝で締めるとまた選びたいくなる、そんなトレイマットを目指しました。



優秀賞 實原 舞乃さん ビジュアル・デザイン専攻3回生
マクドナルドの森に関連する様々な自然環境に配慮した取り組みをトレイマットにまとめました。京都の美しい景観や森に住む動物たちを二種類に描き、マクドナルドで食事をするのが私たちが住んでいる地域の環境を守ることに繋がっているんだということを楽しく伝えられるように明るくてにぎやかな絵を描きました。



京都市長賞 小谷 凜賀さん デザイン科2回生
すぐろくのように一つ一つのマス目をたどりながら、京都市の自然や環境保護の活動と、マクドナルドの環境への取り組み、そしてサステナブルラベルの意義をマクドナルドで食事をする子供たちやその家族に楽しく、そして分かりやすく知ってもらえるようにしました。

第1次選考に選ばれた上記4点以外の12作品



YouTubeで本プロジェクトの様子が見られます
第6回京都大学超SDGsシンポジウムでの活動報告の動画 1:55:00～プロジェクトの説明とコンテストの開始について
第7回京都大学超SDGsシンポジウムでの実施報告の動画 26:40～実施内容の説明と、最優秀賞・京都市長賞の作者による作品の紹介等について

京都市内で生物多様性を学べるイチ押しスポット！

京都市は、昔から山紫水明の都とよばれ、緑美しく、川の水が清らかなまちとして知られています。多くの人が住んでいるにもかかわらず、現在でも豊かな自然環境にめぐまれています。市内には、京都御苑やお寺・神社が多く、境内には美しい森があります。また鴨川など、周囲の山から清流を集めて街の中を流れる川もたくさんあります。そこにはいろいろな生きものが生息しており、生物多様性を学べるフィールドとなっています。そんな京都のイチ押しのおすすめスポットを紹介しています。

京都といったらやっぱり鴨川！

アクセスが良い
自然というとアクセスが悪そうなイメージがありますが、鴨川は市内の中心を南北にズドンと流れており、公共交通機関からアクセスできるポイントも多いので、車のない人や他府県の人でも簡単に来ることができるという特徴があります。

もちろんいきものもたくさんいる
鴨川の場合、よくある三面護岸工事のようなものはされず、小さな虫たちから魚や両生類、爬虫類もいて、それらを食べてくる鳥たちもたくさんいます。一方で外来生物であるヌートリアやウシガエルなども生息しているため、ある意味素晴らしい環境ではないのですが、生物多様性を学ぶという点では、良いことも悪いことも同地点で学べるので通しているのではないかと思います。

鳥類が人慣れしている
これはあまり良い話ではないかもしれませんが、観光地ということもあって、鴨川に来ている鳥たちは人をあまり警戒しておらず、必要以上に近づかない限り、ゆったりしているように見えます。双眼鏡を片手に散歩するだけでも多くの種を見ることができるといいます。



許斐 有希さん
京都大学大学院地球環境学堂で生物多様性保全分野を専攻し、両生爬虫類学研究室に所属していました。卒業後はいきもの倶楽部KONOMIとして生物教育系のイベントを実施する仕事を開始。次世代へ日本の自然、生物の魅力を伝えること、生物学の研究者が輝ける場所の創出を目標としています。



京都市で学ぶ生物多様性 鞍馬

鞍馬で毎年10月に開催される伝統行事「鞍馬の火祭」。大小様々な松明を担いで地域内を練り歩く行事です。松明には様々な自然資源が使われ、アカマツ、コバノミツバツツジ、フジ、スギ、などがあります。松明づくりは山に材料を採りにいくことから始まるので、祭を継承する中で資源を持続的に、無駄なく利用するための知恵も受け継がれています。祭りの準備は春には始まり、この時期住民の方は花を日印に、フジを採る場所を探します。鞍馬駅にも松明が飾ってあるので、祭を通した生物多様性を感じてみてください！

奥野 真木保さん
京都大学大学院農学研究科修士2回生の奥野真木保です。大阪唯一の村出身で、実家では春はタケノコ掘りが恒例行事でした。里山資源の持続的な利用に関心があり、大学ではサンショウの採集利用に関する研究を行いました。おいしいものを食べることが大好きです。

身近に見られる地衣類がイチ押し



先ず多様性という意味では、身近な所でも様々な種類が生息している色も形も種類もそれぞれ、どれもこれも面白く美しく可愛いという点です。また、地衣類は極限環境にも適応する類稀なる生命力により先駆種として火山活動等で新たにできた土壌のない陸地にいち早く進出し、陸上の生物多様性の第一段階を担う存在でもあります。さらに面白い事に、地衣類とは菌類が藻類やシアノバクテリアと共生する共生体のごとで、それがあのように様々な形態を織り成しているのです。

島田 草太郎さん
京都大学理学部4回生の島田草太郎です。大阪府交野市出身です。数学を主に学んでいます。絵を描くのが得意です。哲学が好きです。社会学も興味があります。散歩が好きです。運動、特に走るのが好きです。

京都市内で生物多様性について学べるイチ押しスポットは京都御苑

京都御苑に生育する樹木は約5万本といわれており、ウメやサクラ、モミジなどが季節の移ろいを感じさせてくれます。草地でもカンサイタンポポの群落など、500種類を超える植物が生えています。アオバスキなど数多くの野鳥も繁殖・生息し、バードパスなどの観察の場も整備されています。他にも、50種類のチョウや400種類のキノコなど、まさにいきもの宝庫となっています。いきものについて学べる看板もあり、いきものに詳しくなくても楽しむことができます。参考：https://www.env.go.jp/garden/kyotogyoen/1_intro/nature.html

喜安 奏太さん
京都大学農学部4回生の喜安奏太です。福岡県出身です。野鳥が好きで、所属している「エコーど京大」で作成したオンライン番組でも野鳥コーナーを作りました。京都御苑や鴨川でよく野鳥を探しています。

サステナブルソーシング(調達)とは、地球環境や人々の暮らし、社会に配慮された持続可能な調達活動のことです。
生産過程で化学肥料を大量使用することによる土壌や水質の汚染がないか、また二酸化炭素の排出を削減しているかなど、環境への配慮のほか、労働者の人権や労働環境にも配慮されて作られている食べ物や資材を使うことです。サステナブルソーシングの判断基準として役立つのが、環境や人権などに配慮して生産された証明となる「認証マーク」です。

FSC®認証(森林保全)
FSC®認証は環境、社会、経済の便益に違い、きちんと管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品を目に見る形で消費者に届ける仕組みです。

MSC認証(水産資源保全)
MSC「海のエコラベル」は、水産資源と環境に配慮し適切に管理された、持続可能なMSC認証漁業で獲られた天然の水産物の証です。

レインフォレスト・アライアンス認証(持続可能な農業)
レインフォレスト・アライアンス認証マークは、製品(あるいは指定された成分)が、人と自然がともに繁栄する世界を作ろうとする農業生産者、林業者、そしてあるいは企業で作られたことを表しています。レインフォレスト・アライアンス認証マークは、持続可能性の強化につながる手法を用いて生産された原料が使用された製品であることを意味します。詳しくはra.org/jaをご覧ください。

RSPO認証(持続可能なパーム油の調達)
RSPO認定の持続可能なパーム油(CSPO)を生産または実際に取り扱うRSPOメンバーがRSPO認証を取得していることを個人に保証します。これには、メンバーが持続可能性要件にコミットし、準拠していることの保証が含まれ、認証ステータスを主張し、サプライチェーン全体にこれを伝えることができます。

店舗でお客様に提供している紙製の容器包装類とストローおよび木製カトラリー、トレイマットは、すべて森林環境や地域社会に配慮して作られた FSC®認証を取得した紙・木材を使用しています。

お客様からご高論の方まで幅広い年代に人気のフィレオフィッシュに使用する白身魚。人類共有の財産である水産資源を守るため、日本マクドナルドはMSC認証を取得した漁業で獲られた天然のアメリカ・ロシア産のスケウダラを使用したフィレオフィッシュをお客様に提供しています。

コーヒー栽培は気候変動による影響を受けやすく、気候変動により栽培に適した地域が今後移動していく懸念があります。日本マクドナルドがお客様に提供しているコーヒーは、レインフォレスト・アライアンス認証を取得した農園が栽培するコーヒー豆を100%使用しています。

パーム油は、世界で最も多く生産・消費されている植物油。環境や地域社会に配慮して生産されない、熱帯雨林や様々な生物の大規模な消失に直接影響を及ぼしてしまいます。日本マクドナルドが店舗で使用しているフライオイルは、RSPO認証を取得しています。

マクドナルドでは、サプライヤーの皆さまと協力し、サステナブルラベルを取得した食材・資材の調達を積極的に進めています。

special sponsorship

supported by

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学地球環境学堂 浅利研究室
びっくり！エコ新聞事務局
Mail: ecocheck@eprc.kyoto-u.ac.jp

